

留学生活で得たこと

長良高等学校 西尾 加那子（アメリカ合衆国）

10ヶ月間という長い間、今まで生活を共にしてきた家族と離れ、違う国で違う家族と過ごす日々は、私を様々な面で成長させてくれました。日本に居たままでは学ぶことができない、体験できないことが沢山ありました。特に私を成長させてくれたことは2つあります。

私はアメリカ合衆国のアイダホ州、Gooding という小さな町にホストマザー、ホストファザー、そして4人のホストブラザーたちと暮らしていました。言葉や文化が違うのは、アメリカに行く前から分かっていたのですが、一緒に生活すると、その違いを身をもって実感しました。例えば、昼食にポテトチップスが出てきたり、バスルームを開けっ放しにしたりなど、小さな事ですが、日本ではほとんどあり得ないことがたくさんあります。私が特に大きな文化の違いだと感じたことは、コミュニケーションの取り方です。話す、伝える、相手にわかってもらおうとする姿勢が、今まで日本で過ごしてきた私には新鮮でした。日本には、本音と建前という言葉があります。自分の思っていることを正直に言えない人が多いようにも思います。私も自分の感情を隠して、伝えることを諦めていたことがありました。しかし、この留学を通して考えが変わりました。結局は、自分の言葉で伝えることで、お互いの理解を深めるのだと思います。アメリカでは、学校での喧嘩やトラブルもその分多いと思いますが、絆を深める機会も多いと思います。私は相手の気持ちばかりを気にして、思っていることを言えないことが、日本での生活でも留学中でも沢山ありました。留学生活を始めた頃は特に、言葉も上手く話せないのが辛かったです。それを支えてくれたのはホストマザーでした。「ゆっくりでいいから話して」と言われ、泣きながら自分の思っていた事を伝えました。その後、彼女は優しくハグしてくれました。話した後は気持ちが軽くなり、ホストファミリーとの仲も深まっていきました。言葉にしなければ分からないことが沢山あり、伝えることで互いの理解に繋がるのだと、改めて学びました。ホストファザーと言い合いをしたこともありますが、お互いを嫌いになるというよりは、寧ろ好きになりました。一生懸命に伝えよう、相手を分かろうとする姿勢があれば、言葉の壁を感じることもありませんでした。これは、どこにいても同じだと思います。これからは、自分のことを伝えること、そしてホストマザーのように相手を理解し支え合うことを大切にしていきます。アメリカ人がよく“I love you.”と言うのは、思っていることをすぐに口にするからだと思います。

アメリカの学校に通うことは、私の夢でした。制服やお弁当、決まった教室が無い生活は自由で楽しかったです。日本での当たり前が全く当たり前で無いことに、最初は戸惑いもありました。アメリカの人々をフレンドリーだと感じたり、知らない人に声をかけられて、会話が始まったりすることは珍しくありません。学校でも困ったときは、誰でもすぐ近くにいる人に話しかけました。それがきっかけで友だちになった子もいます。留学生の私に興味を持ってくれる生徒は沢山いましたが、なかなか日本にいた頃のように、悩みを相談できる友だちができませんでした。そこで、自分

を振り返ってみると、待っているだけで自分から行動していないなと思いました。ホストマザーの支えもあり、自分からいろんな子に話しかけました。話してみても、初めてわかることが沢山あります。そして、だんだんと友達も増え、一緒に遊びに行ったり、スポーツをしたりする時間が楽しくなりました。全て自分の考え方や行動次第で変わるのだと学びました。

アメリカでの生活の中で、徐々に私自身が変わっていると感じました。伝えることの大切さ、そして、自分次第で状況を変えられると学んだ今は、改めて私を支えてくれた人たちへの感謝の気持ちでいっぱいです。留学をしてから、国や文化、人、言葉の違いについて考えました。日本に居たままでは、おそらく考えもしなかったと思います。確かに、国によって様々な面で違いもありますが、私が共通していると思うことは、思いやりの気持ちが大切だと言うことです。優しくされて嫌な気持ちになる人はいないと思います。簡単に聞こえますが、私自身を含め、できていない人はいます。留学生活を終え、どこの国の人とでも語り合い、笑い合い、家族や友達になれると身をもって知った今、また違う国へ行ってみたいという好奇心でいっぱいです。

